

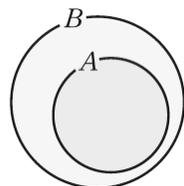
章のまとめ

(教科書 p.125)

① 部分集合 (教科書 p.115)

集合  $A$  のすべての要素が集合  $B$  の要素になっているとき、 $A$  は  $B$  の

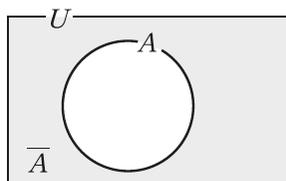
であるといい、 $A \subset B$  で表す。



② 全体集合と補集合 (教科書 p.115)

全体集合  $U$  の部分集合  $A$  に対して、 $U$  の要素であって  $A$  の要素でない

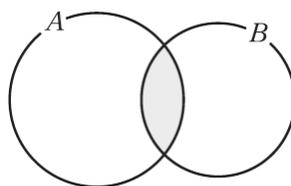
ものの集合を  $A$  の  といい、 で表す。



③ 共通部分と和集合 (教科書 p.116)

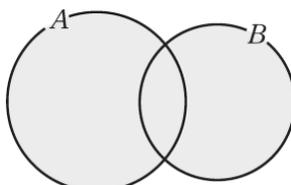
2つの集合  $A, B$  のどちらにも含まれる要素全体の集合を、 $A$  と  $B$  の

といい、 $A \cap B$  で表す。



2つの集合  $A, B$  の要素をすべて集めた集合を、 $A$  と  $B$  の  と

いい、 $A \cup B$  で表す。



④ 命題と真偽 (教科書 p.117)

正しいか正しくないかが決まる文や式を  という。

命題が正しいとき、その命題は  であるといい、正しくないとき、 であるという。

⑤ 必要条件と十分条件 (教科書 p.119)

命題「 $p \Rightarrow q$ 」が真であるとき

$p$  は  $q$  であるための  条件であるといい、

$q$  は  $p$  であるための  条件であるという。

命題「 $p \Rightarrow q$ 」と命題「 $q \Rightarrow p$ 」がともに真であるとき

$p$  は  $q$  であるための  条件であるという。

⑥ 逆と対偶 (教科書 p.121)

命題「 $p \Rightarrow q$ 」に対して

「 $q \Rightarrow p$ 」をもとの命題の  といい、

「 $\bar{q} \Rightarrow \bar{p}$ 」をもとの命題の  という。

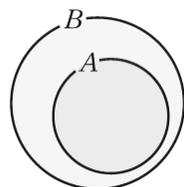
章のまとめ

(教科書 p.125)

① 部分集合 (教科書 p.115)

集合  $A$  のすべての要素が集合  $B$  の要素になっているとき、 $A$  は  $B$  の

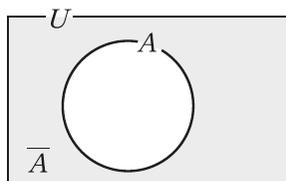
**部分集合** であるといい、 $A \subset B$  で表す。



② 全体集合と補集合 (教科書 p.115)

全体集合  $U$  の部分集合  $A$  に対して、 $U$  の要素であって  $A$  の要素でない

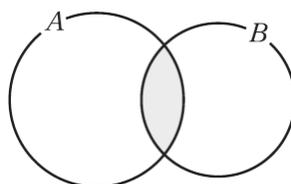
ものの集合を  $A$  の **補集合** といい、 $\bar{A}$  で表す。



③ 共通部分と和集合 (教科書 p.116)

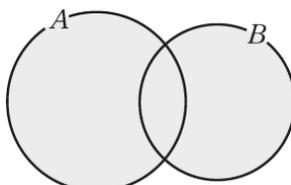
2つの集合  $A, B$  のどちらにも含まれる要素全体の集合を、 $A$  と  $B$  の

**共通部分** といい、 $A \cap B$  で表す。



2つの集合  $A, B$  の要素をすべて集めた集合を、 $A$  と  $B$  の **和集合** と

いい、 $A \cup B$  で表す。



④ 命題と真偽 (教科書 p.117)

正しいか正しくないかが決まる文や式を **命題** という。

命題が正しいとき、その命題は **真** であるといい、正しくないとき、**偽** であるという。

⑤ 必要条件と十分条件 (教科書 p.119)

命題「 $p \Rightarrow q$ 」が真であるとき

$p$  は  $q$  であるための **十分** 条件であるといい、

$q$  は  $p$  であるための **必要** 条件であるという。

命題「 $p \Rightarrow q$ 」と命題「 $q \Rightarrow p$ 」がともに真であるとき

$p$  は  $q$  であるための **必要十分** 条件であるという。

⑥ 逆と対偶 (教科書 p.121)

命題「 $p \Rightarrow q$ 」に対して

「 $q \Rightarrow p$ 」をもとの命題の **逆** といい、

「 $\bar{q} \Rightarrow \bar{p}$ 」をもとの命題の **対偶** という。